無用の用

名前（　　）　日づけ（　／　）　できた数（　／28）

使い方　書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**この話の山は反語「人尚ほ用有らんや」、二重否定「〜ざるに非ず」と限定「のみ」、そして二つの「無用」が何を指すか**です。

あらすじ＝友人の恵子が荘子に「あなたの言うことは役に立たない」と言う。荘子は「無用がわかってこそ有用を語れる」と答え、大地のたとえを出す。大地は広いが、人が使うのは足をのせる所だけだ。では、足もとだけ残してまわりを地の底まで掘ったら、その土地はまだ役に立つか。恵子が「役に立たない」と認めると、荘子は「それなら、無用なものが役に立っていることも明らかだ」と結ぶ。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

恵子（けいし）荘子（さうし）に謂（い）ひて曰（いは）く、「①子（し）の言（げん）は無用（むよう）なり。」と。荘子曰（いは）く、「②無用を知（し）りて始（はじ）めて③与（とも）に用（よう）を言（い）ふべし。④夫（そ）れ地（ち）は⑤広（ひろ）く且（か）つ大（だい）ならざるに非（あら）ざるも、⑥人（ひと）の用（もち）ゐる所（ところ）は足（あし）を容（い）るるのみ。⑦然（しか）らば則（すなは）ち足を廁（はか）りて⑧之（これ）を塾（ほ）り、⑨黄泉（くわうせん）に致（いた）さば、⑩人尚（な）ほ用（よう）有（あ）らんや。」と。恵子曰（いは）く、「⑪無用なり。」と。荘子曰（いは）く、「然らば則ち⑫無用の用（よう）為（た）るや⑬亦（ま）た明（あき）らかなり。」と。

語注　荘子＝戦国時代の思想家、荘周（そうしゅう）。恵子＝荘子の友人で、理屈をたたかわせる議論の相手。名は施（し）で、恵施（けいし）とも呼ばれる。言＝言うこと・議論。無用＝役に立たないこと。⇕有用。用＝役に立つこと・はたらき。容る＝入れる・おさめる。ここでは足をのせること。廁る＝ここでは、足をのせる所の大きさだけをはかって残すこと。致す＝届かせる。尚ほ＝それでもなお。※「廁」は、「はかる」と読む本のほか、「側（かたわら）」の意味にとって「足のまわり（の土地）」と解する古い注釈もある。※白文の「也」は、ここでは読まずに「非ざるも、」と下へ続けている。「非ざるなり。」と読んで文を切る本もある。※古い本には「無」を「无」と書くものがある（同じ字）。書き下し文の読み方や送り仮名は教科書によって少しちがうことがある。お使いの教科書に合わせてください。

無用の用

A 語句の意味と読み（1〜6）

(1) ①「子（し）の言（げん）は無用（むよう）なり」の「子」の意味を書け。

(2) ③「与（とも）に用（よう）を言（い）ふべし」の「与に」の意味を書け。

(3) ④「夫（そ）れ」の意味を書け。

(4) ⑧「之（これ）を塾（ほ）り」の「塾る」の意味を書け。

(5) ⑨「黄泉（くわうせん）」の読みを現代仮名遣いの平仮名で書け。また、ここでの意味を書け。

(6) ⑬「亦（ま）た明（あき）らかなり」の「亦た」の意味を書け。

B 句法（7〜13）

(7) ②「無用を知（し）りて始（はじ）めて」の部分の白文は「知無用而始」である。「而」は書き下し文でどのように扱われているか。また、ここでの働きを書け。

(8) ③「与（とも）に用（よう）を言（い）ふべし」の白文は「可与言用矣」である。「べし」にあたる字を白文から抜き出し、ここでの意味を書け。

(9) ⑤「広（ひろ）く且（か）つ大（だい）ならざるに非（あら）ざるも」は、白文「非不広且大」を読んだものである。この句法を何というか。また、どのような意味になるかを書け。

(10) ⑥「人（ひと）の用（もち）ゐる所（ところ）は足（あし）を容（い）るるのみ」の「のみ」にあたる字を白文から抜き出せ。また、この句法を何というか。

(11) ⑦「然（しか）らば則（すなは）ち」の意味を書け。

(12) ⑩「人尚（な）ほ用（よう）有（あ）らんや」の文末の「んや」にあたる字を白文から抜き出せ。また、ここではどのような意味を表しているかを書け。

(13) ⑫「無用の用（よう）為（た）るや」の白文は「無用之為用也」である。「為る」の読みと意味、「也」の読みと働きを書け。

C　話し手・指す内容（14〜17）

(14) ①「子（し）の言（げん）は無用（むよう）なり」は、誰が誰に言った言葉か。また、「子」は誰を指すか。

(15) ⑧「之（これ）を塾（ほ）り」の「之」は何を指すか。

(16) ⑩「人尚（な）ほ用（よう）有（あ）らんや」で、荘子は、何が役に立つかどうかを問うているのか。

(17) ⑪「無用なり」と答えたのは誰か。また、何が「無用」だと言っているのか。

D　口語訳（18〜21）

(18) ②③を含む「無用を知りて始めて与に用を言ふべし」を口語訳せよ。

(19) ④⑤⑥を含む「夫れ地は広く且つ大ならざるに非ざるも、人の用ゐる所は足を容るるのみ」を口語訳せよ。

(20) ⑦⑧⑨⑩を含む「然らば則ち足を廁りて之を塾り、黄泉に致さば、人尚ほ用有らんや」を口語訳せよ。

(21) ⑫⑬を含む「然らば則ち無用の用為るや亦た明らかなり」を口語訳せよ。

E 内容・記述（22〜25）

（22）⑥「人（ひと）の用（もち）ゐる所（ところ）は足（あし）を容（い）るるのみ」とあるが、この言葉は、大地のどの部分が「有用」で、どの部分が「無用」に見えることを示しているか。説明せよ。

（23）⑪恵子が「無用なり」と答えたことで、議論はどうなったか。荘子の結論にふれて説明せよ。

（24）⑫「無用の用（よう）為（た）るや」とあるが、ここでいう「無用の用」とはどのような考えか。本文の大地のたとえを用いて、四十字以内で書け。

（25）①で恵子は荘子の言葉を「無用」だと批判した。荘子の最後の言葉（⑫⑬）は、この批判に対してどのような答えになっているか。説明せよ。

F 出典・思想（26〜28）

（26）この文章は『荘子』の何という篇に収められているか。また、荘子（荘周）は、老子とともに諸子百家の何という学派を代表する思想家か。

（27）『荘子』人間世（じんかんせい）篇には「人皆知有用之用、而莫知無用之用也」（人皆有用の用を知るも、無用の用を知る莫（な）きなり）という一文がある。この一文の意味を書け。また、本文の大地のたとえでは、何が「無用の用」にあたるか。

（28）学問や徳を身につけて、世の中や政治の役に立つ人間になることを重んじた儒家（孔子・孟子）に対して、この文章の荘子はどのような考え方をとっているか。説明せよ。

【テスト直前チェック】この三つ　❶「〜んや（乎）」は反語。「人尚ほ用有らんや」＝「それでも役に立つだろうか、いや役に立たない」。恵子の「無用なり」は、この問いへの答え。（疑問と訳す教科書もあるので、授業の訳に合わせる）　**❷句法は二重否定・限定・置き字。**「非不（〜ざるに非ず）」＝強い肯定、「耳（のみ）」＝〜だけ、「而・矣」は読まない。「然らば則ち」＝それならば。　**❸二つの「無用」を区別する。**①は荘子の言葉、⑪は足もとだけ残った土地。「無用の用」＝使わない土地が足もとを支える。記述問題の答えは、このたとえと儒家の「有用」との対比に集まります。

▸ 漢文の参考書のおすすめ（楽天・Amazonのリンクつき）　kotennosennsei.com/kanbun-sankousho/　　▸ 解説記事にもどる